

# 外国語活動において、 見通しをもって楽しくコミュニケーションを図る児童の育成 ー課題との出会わせ方の工夫と「めあてステップ」の作成と活用ー

前橋市立桂萱東小学校 三輪 美鈴

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編では、「児童がこれまでに慣れ親しんできた英語を駆使し、様々な相手と互いの考えや気持ちを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを実際に体験することが大切である」と示されている。群馬県の「学校教育の指針」には、学びを深める授業改善のポイントとして「目的、場面、状況を実生活と関連付けるなど、児童生徒が既習表現を駆使し、自分の思いや考えを表現したくなる言語活動を設定」することの必要性が示されている。また、前橋市の「各教科等指導の努力点」では、児童の思いや考えを引き出す指導の工夫として、「つかむ」過程で児童の身近な話題を基に活動への興味・関心を高めることや児童が活動の目的・場面・状況を把握し、課題を明確に捉えられるようにすることが挙げられている。これらのことから、外国語活動では具体的な課題を設定し、目的や場面、状況などに応じた言語活動を行い、楽しくコミュニケーションを図ることが重要だと考える。

本校の児童は、外国語を学ぶことは大切だと思っはいるものの外国語活動が好きだと感じている児童は少ないという実態がある。また、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動に関しても消極的な児童が多く見られる。これは、児童自身がコミュニケーションの目的や場面、状況をしっかりと意識できていないことや言語活動において話したり聞いたりする必要感をもてていないこと等の理由が考えられる。その原因として、教師主導でめあてを提示してしまったり、コミュニケーションの目的や場面、状況の設定が曖昧なまま言語活動を行ったりしていることが考えられる。

このことから、児童が見通しをもって楽しく言語活動に取り組めるようにすることが重要だと考えた。そのためには、課題との出会わせ方を工夫し、児童の興味・関心を高められるようにするとともに見通しをもてるようにすることや、児童の思いを基にした毎時間のめあての設定や必要感のある言語活動を行うことが必要であると考え本主題を設定した。

## II 研究のねらい

外国語活動において、見通しをもって楽しくコミュニケーションを図る児童を育成するために、導入における課題との出会わせ方の工夫と、「めあてステップ」の作成と活用を行うことの有効性を明らかにする。

## III 研究の見通し

小学校外国語活動の指導において、以下の手立てを講じることで、見通しをもって楽しくコミュニケーションを図る児童を育成できるであろう。

## 1 【手立て1】課題との出会わせ方の工夫

単元の「つかむ」過程の導入において、児童が興味・関心をもてる身近な題材を取り上げた活動を提示するとともに、児童の思いや気付きを基に単元のゴールを設定することで見通しをもって学習に取り組めるようにする。

## 2 【手立て2】「めあてステップ」の作成と活用

毎時間のめあてを児童と共に設定し、時数とめあてを可視化した「めあてステップ」を作成する。作成した「めあてステップ」は、授業の中で学習内容の再確認や学習の振り返りに活用することで、必要感をもって学習に取り組めるようにする。

## IV 実践内容

本研究では、小学校第4学年3学級(84名)の外国語活動「Unit 7 What do you want?」(全5時間)において授業実践を行った。

### 1 手立て1 課題との出会わせ方の工夫

#### (1) 実践の概要

単元の「つかむ」過程(第1時)の導入において、児童と関わりの深い教師の好きなスペシャルランチ(パフェとピザ)をクイズにした「Who am I?」(図1)を用いて、担任(HRT)と前橋イングリッシュサポーター(MES)のモデル会話をを行った(表1)。モデル会話には、単元で必要となる語句や表現を全て取り入れたり(表1下線部)、ジェスチャーや小物を用いて演示したりすることで、児童が単元のゴールのイメージをもったり、必要な表現に気付いたりするように心掛けた。会話後には、児童に「どのような話をしていたでしょうか」と問いかけ、会話の内容を全体で共有した。さらに、実際に「Who am I?」(図1①)の答えを考える会話とクイズを行った後に「Unit 7のゴールは何にしますか」と問いかけ、児童と共に単元のゴールを設定し、学習の見通しをもてるようにした。

#### (2) 結果と考察

HRTとMESのモデル会話を聞く中で、児童から歓声や驚きの声が上がった。そして、普段外国語活動にあまり興味を示さないA児が、会話を聞きながら「いいね、いいね!」「僕、全部分かったよ」と反応していた。他の児童も積極的に挙手をし、「スペシャルランチを作っていたよ」「パフェとピザの材料を集めていたよ」とモデル会話の内容を捉えた発言をしていた(図2)。

続けて行った「Who am I?」クイズでは、児童全員が「誰だろう?」「おいしそう!」「これは、〇〇先生かな」と言いながら、一生懸命に会話を聞き取ったり答えを考えたりする姿が見られた(図3)。また、「自分もスペシャルランチを作りたい」「クイズにしたい」という声も上がった。これらのことから、児童と関わりの深い「Who am I?」ク



図1 「Who am I?」クイズ

表1 担任とMESのモデル会話

HRT: Hi! Hideko sensei!
MES: (お腹をさすりながら) Hi, Misuzu sensei!
HRT: What happened?
MES: I'm hungry.
HRT: Oh... (感いついたかのように) Look! This is my Special Lunch!
MES: Wow! It looks delicious! Let me try!
HRT: Of course! <u>What do you want?</u>
MES: I want vanilla ice cream!
HRT: <u>Here you are.</u>
MES: Thank you! <u>I want</u> more fruits!
HRT: <u>What do you want?</u>
MES: <u>I want melons, grapes, bananas, oranges, and strawberries!</u>
HRT: Sure!
MES: (テーブルを使って、スペシャルランチを作る) Look! This is my Special Lunch! <u>I want vanilla ice cream, bananas, melons, grapes, oranges, and strawberries.</u>
This is my pizza. <u>I want onions, cheese, tomatoes, mushrooms, green peppers, salamis.</u>
HRT: Wow!



図2 モデル会話の内容確認



図3 クイズのやり取り

イズを行ったことは、児童が興味・関心をもつことにつながったと考える。

単元のゴールを設定する場面では、教師の問いかけに対し、児童は自分たちならこの単元で何をしたいか考え、「自分の好きなスペシャルランチを作りたい」という思いを表出していた。そこで「作るだけでいいですか」とさらに問いかけると、「作って紹介したい」「みんなのも見たい」という発言があったので、その言葉を基に「スペシャルランチを作って紹介しよう」という単元のゴールを設定した(表2)。

児童の振り返りに「次は世界で一つだけのパフェを作りたい」「うまく言えなかったからもっと上手に言えるようになりたい」という記述が見られたことから、児童の思いや気付きを基に単元のゴールを設定することで児童が学習の見通しをもつことができたと考える。

## 2 手立て2 「めあてステップ」の作成と活用

### (1) 実践の概要

#### ア「めあてステップ」の作成

①手立て1で児童と共に考えた単元のゴールを「めあてステップ」の  に記入した(図4及び資料1参照)。

②単元のゴールを達成するためにはどのような学習をすれ

ばよいのかについて、毎時間の導入で、単元の時数や学習に必要な語句や表現を意識した言葉かけを行いながら児童とやり取りし、それを基にめあてを設定して図4中の「めあてステップ」の①～⑤に記入した。

第1時のめあての設定では、児童からの『How many?』を使っていたよ」「まずは果物と野菜の言い方だね」といった発言を基に、本時のめあてを「果物と野菜の言い方を覚えて言ってみよう」と設定し、「めあてステップ」(図4①)に記入し、パフェとピザに必要な果物と野菜の言い方と欲しいものの言い方について学ぶ言語活動を行った。

第2時では「欲しいものの言い方が言えなかった」「世界で一つだけのパフェを作りたい」という前時の振り返りから、「パフェを作るには何をしたらいいですか」と問いかけた。すると児童から「材料を集める言い方を覚える」「自分の欲しいものを集める」という意見が出たので児童と共に本時のめあてを作成し「めあてステップ」(図4②)に記入した。

このように、毎時間児童とやり取りを行いながら「めあてステップ」を作成した。

#### イ「めあてステップ」の活用

授業中には「めあてステップ」を常に掲示し、主に二つの場面で活用した。一つ目は言語活動の際に、めあてを意識した活動ができているか、めあての達成に必要な語句や表現を使っているかを児童が確認できるようにしたことである。二つ目は、振り返りの際に「めあてが達成できたか」「何ができるようになったか」「前と比べてどうか」という三つの観点で学習を振り返るようにしたことである。

第2時や第3時に、児童がお店屋さんごっこの活動に取り組んでいる途中で「めあてステップ」を基に、「欲しいものを聞くときはどんな言い方でしたか」と問いかけながら全体で表現を確認した。すると、友達と『What do you want?』だよ』『How many?』だよ

表2 単元のゴールを設定するやり取り

HRT: さあ、Unit7のゴールは何にしますか。
B児: 自分のプレートを作る!
C児: 自分の好きなピザとパフェを作りたい!
D児: 欲しいものをのせたい!
E児: スペシャルランチを作ろう!
HRT: 作るだけでいい?(さらに問いかける)
F児: みんなのもみたい!
G児: 紹介しよう! 作って紹介しよう!
HRT: いいですね! Unit7のゴールはそれでもいいですか。
『スペシャルランチを作って紹介しよう!』(掲示)

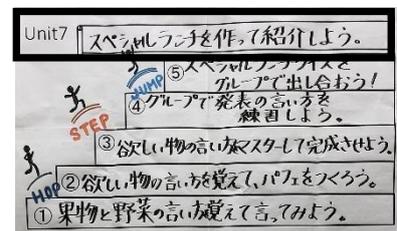


図4 Unit7で作成しためあてステップ



図5 言語活動での様子

と確認したり、教え合ったりする姿が見られた（前頁図5）。振り返りでは「本時のめあては達成できましたか」と投げかけ、「めあてステップ」を基に振り返りができるようにした。

## (2) 結果と考察

これまで外国語活動への取組みが消極的で好きではないと言い、Unit 1の振り返り（三段階の項目「よくできた」「できた」「できなかった」）において「できなかった」に○を付けることが多かったH児に大きな変化があった。H児は、第1時では「できた」に○を付け、自由記述欄に「できた」とだけ記述をしていた。第2時では、お店屋さんとお客さんの役割を交代する時間に表現や語句の確認を行った。その際、H児は友達からすてきなお店屋さん選ばれ、他の児童の前で手本を見せた。振り返りでは、全ての項目において「よくできた」に○を付け、「アイコンタクトができて、お客さんに伝えられた」と記述していた。その後H児は、単元の最後まで意欲的に取り組み、第5時の振り返りには、「楽しかったからまたやりたい」と記述していた（資料3参照）。また、他の児童についても第2時の振り返りに「自分の欲しいものの言い方が覚えられた」「欲しいものの言い方をマスターできた」「あまり英語が得意ではないけど、できるようになって楽しかった」などの記述が見られ（資料4参照）、めあてを意識して活動することによってできるようになる楽しさを実感していることがうかがえた。Unit 7終了後には、97%の児童が『めあてステップ』があっってよかった」と答え、その理由として、「目的があるから、やることがしっかりとできた」「今日何をするのかが分かりやすいから、一生懸命にできた」という記述が見られた（資料6参照）。

これらのことから、「めあてステップ」を作成し活用することで、児童が単元のゴールを達成するために何をしたらよいかという必要感を明確にもちながら学習に取り組むことができたと考える。

## 3 手立て1・2を通して

4月とUnit 7終了後に行った外国語活動に関するアンケートを比較すると、「英語が好き」と答えた児童が21%増加し、「話すことが好き」「友達と話すことが好き」に関してもそれぞれ15%、17%増加した。さらに「話すこと」が苦手と答えた児童は29%から4%に大幅に減少した（資料7参照）。これらのことから、今回の研究が楽しくコミュニケーションを図る児童の育成の一助となったと考える。

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

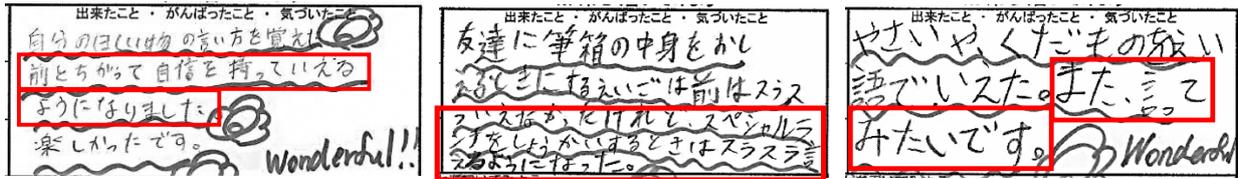
課題との出会わせ方を工夫したことで、興味・関心をもち、目的意識をもって楽しく外国語活動に取り組む児童が増えた。また、「めあてステップ」を作成し活用したことで、児童一人一人が必要感をもって学習に取り組むようになった。

### 2 今後の課題

振り返りを行う際に、児童が学習の成果をより実感できるように、どのようなことについて振り返るのかといった明確な観点を示す必要がある。また、3・4学年の2年間を見通した外国語活動の在り方を探る必要や、高学年の外国語に繋がる指導方法を学校全体で共有していく必要がある。



【資料5】単元最後の振り返りの記述



【資料6】「めあてステップ」に関するアンケートの記述

次やるときに「**きょうこれがむずかしかったからこれをかんはろう。**」と思ってそれをやったらできたからよかったなと思った

きょうはこれから**こんどはこれだ**と思って練習できた。

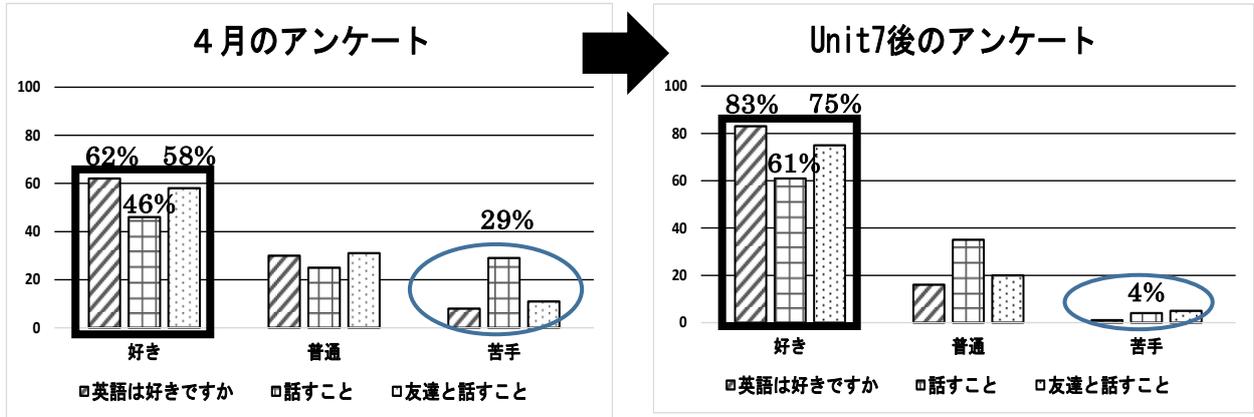
**目的がそれぞれあるから、やることがしかりと**前の時間のやったこともかいてあるから**できた!!**

「めあてステップ」があったので**今日やること**が明確に「**きょうこれがむずかしかったからこれをかんはろう。**」と書いていたのでもういやりやく覚えやすかったぞ。(自分の気持ち) 私は英語が大好きなので、いっけい頑張りたい!

【資料7】外国語に関するアンケート（4月、Unit7後）

研究主題にそって「英語は好きですか」「話すことは好きですか」「友達と話すことは好きですか」の三つの質問をした。回答は【1 好き 2 普通 3 苦手】の三段階で集計した。

☆アンケート結果



<参考文献>

群馬県教育委員会 (2019). たくましく生きる力をはぐくむ はばたく群馬の指導プラン II  
 群馬県教育委員会 (2022). 令和4年度 学校教育の指針  
 群馬県教育研究所連盟 (2001). 改訂新版実践的研究のすすめ方 東洋館出版  
 国立教育政策研究所(2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 東洋館出版  
 直山木綿子 (2014). 小学校外国語活動のツボ 教育出版  
 文部科学省 (2018). 小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編 開隆堂出版  
 文部科学省 (2017). 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック 旺文社